

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

国立民族学博物館研究報告 vol.15-4; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009206

1990—15_卷4_号

国立民族学博物館 研究報告



フェリアの変貌

——スペイン，エストレマドゥーラの家畜・産業・祝祭市—— 黒田悦子

歌謡曲の歌詞に見る旅

——昭和の歌謡史・私論—— 久保正敏

Materialien zu einer Liste altindischer Verbalformen:

1. *ami*, 2. *ay/i*, 3. *as/s*—— Toshifumi Gotō

インド密教儀礼における水—— 森 雅秀

Abbatial Successions of the Colleges of

gSang phu sNe'u thog Monastery—— Shunzo Onoda

A Study of the *Vajradhātu-maṇḍala* (1): Modern Line-drawings

depicted according to the *Niṣpannayogāvali*—— Musashi Tachikawa



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

15 卷 4 号

1990 年

目 次

フェリアの変貌 ——スペイン、エストレマドゥーラの家畜・産業・祝祭市——	黒田悦子	917
歌謡曲の歌詞に見る旅 ——昭和の歌謡史・私論——	久保正敏	943
Materialien zu einer Liste altindischer Verbalformen: 1. <i>amⁱ</i> , 2. <i>ay/i</i> , 3. <i>as/s</i>	Toshifumi Gotō	987
インド密教儀礼における水	森 雅秀	1013
Abbatial Successions of the Colleges of gSang phu sNe'u thog Monastery	Shunzo Onoda	1049
A Study of the <i>Vajradhātu-maṇḍala</i> (1): Modern Line-drawings depicted according to the <i>Niṣpanmayogāvali</i>	Musashi Tachikawa	1073
彙 報		1121
国立民族学博物館研究報告15巻総目次		1125
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		1126
国立民族学博物館研究報告執筆要領		1127

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 15 No. 4

1990

KURODA, Etsuko	The Transformation of the Ferias: Ferias of Livestock, Agri-pastoral Industrial Products, and Festive Events in a Town of Southern Extremadura	917
KUBO, Masatoshi	Travels Sung in Japanese Popular Songs: A Historical View of the Popular Songs of the Showa Era	943
GOTŌ, Toshifumi	Materialien zu einer Liste altindischer Verbalformen: 1. <i>ami</i> , 2. <i>ay/i</i> , 3. <i>as/s</i>	987
MORI, Masahide	Water in the Tantric Buddhist Rituals in India	1013
ONODA, Shunzo	Abbatial Successions of the Colleges of gSang phu sNe'u thog Monastery.....	1049
TACHIKAWA, Musashi	A Study of the <i>Vajradhātu-maṇḍala</i> (1): Modern Line-drawings depicted according to the <i>Niṣpannayogāvali</i>	1073

彙 報

(平成2年10月～
平成2年12月)

人事異動

(教育職)

(昇任)

10月1日 第一研究部教授 守屋 毅

(第一研究部助教授)

第四研究部助教授 八杉 佳穂

(第四研究部助手)

(客員研究部門)

10月1日 第一研究部教授 大林 太良

(東京女子大学教授)

(外国人客員研究部門)

10月5日 第五研究部教授

チャティップ・ナートスパー

(タイ国立チュラロンコン大
学教授)

シンポジウム

「現代日本における伝統と変容」

一昭和史 世相篇一

期間 平成2年12月18日(火)～21日(金)

場所 国立民族学博物館

今回は、この特別研究の最終年にあ
たり、「昭和史 世相篇」をテーマに
いままでの成果を総括し、日本におけ
る文化の大きな転換の時代としての20
世紀について、活発に討論された。

シンポジウム委員会

委員長

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究
部

事務局

近藤 雅樹 国立民族学博物館第一研究
部

佐々木史郎 国立民族学博物館第一研究
部

新見 惇一 国立民族学博物館管理部研
究協力課共同利用係

今田 好子 「伝統と変容」事務局

報告者

石毛 直道 国立民族学博物館

井上 忠司 甲南大学(民博客員)

神崎 宣武 神崎研究室

熊倉 功夫 筑波大学

栗田 靖之 国立民族学博物館

小山 修三 国立民族学博物館

杉田 繁治 国立民族学博物館

園田 英弘 国際日本文化研究センター

高田 公理 愛知学泉女子短期大学

谷 直樹 大阪市立大学

中牧 弘允 国立民族学博物館

波平恵美子 九州芸術工科大学

野村 雅一 国立民族学博物館

端 信行 国立民族学博物館

守屋 毅 国立民族学博物館

討論参加者

石森 秀三 国立民族学博物館

梅棹 忠夫 国立民族学博物館

祖父江孝男 放送大学

竹村 卓二 国立民族学博物館

藤井 知昭 国立民族学博物館

森田 恒之 国立民族学博物館

米山 俊直 京都大学

日程

12月18日(火)

10:00 受付

(司会 竹村 卓二)

10:30 あいさつ 梅棹 忠夫

11:30 問題提起: 昭和史 世相篇

石毛 直道

(司会 中牧 弘允)

13:15 目に映ずる日本の都市一明るさと
色彩 守屋 毅

14:15 円居としての食卓 熊倉 功夫

(司会 森田 恒之)

15:30 家と住心地 一昭和住生活史

谷 直樹

16:30 風光推移 神崎 宣武

12月19日(水)

(司会 石森 秀三)

10:00 昭和の故郷・異郷 小山 修三

11:00 新交通と文化輸送者 高田 公理

(司会 栗田 靖之)

13:15 酒と女性 井上 忠司

- 14:15 恋のみちの曲がり角 一昭和後期の男女関係 野村 雅一
(司会 端 信行)
- 15:30 会社永続の願い 中牧 弘允
- 16:30 コンピュータリゼーション 一生産と商業の情報化一 杉田 繁治
- 12月20日(木)
(司会 井上 忠司)
- 13:15 株式会社・日本の成立とその変容一仕事空間の再編成一 端 信行

- 14:15 病気と治療と信仰 波平恵美子
(司会 杉田 繁治)
- 15:30 伴を慕う心 園田 英弘
- 16:30 昭和偉人考 栗田 靖之
- 12月21日(金)
- 11:00 (司会 藤井 知昭)
コメントⅠ 米山 俊直
コメントⅡ 祖父江孝男
(司会 石毛 直道)
- 13:30 総括討論

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
小川 了	助教授(第三研究部)	2. 9. 30	4. 9. 9	セネガル
端 信行	助教授(第三研究部)	2. 10. 1	2. 11. 24	フランス, カメルーン
友枝 啓泰	教授(第四研究部)	2. 10. 1	2. 10. 26	ペルー
杉島 敬志	助手(第二研究部)	2. 10. 2	2. 11. 22	マレーシア
杉村 棟	教授(第二研究部)	2. 10. 4	2. 11. 18	ソ連
江口 一久	助教授(第三研究部)	2. 10. 8	2. 11. 7	中国
吉本 忍	助教授(第二研究部)	2. 10. 9	2. 11. 8	インドネシア
		2. 11. 14	2. 11. 29	インドネシア, タイ
松山 利夫	助教授(第一研究部)	2. 10. 22	2. 12. 6	オーストラリア
崎山 理	教授(第五研究部)	2. 10. 22	2. 12. 21	フランス, マダガスカル
藤井 知昭	教授(第五研究部)	2. 10. 27	2. 11. 1	アメリカ合衆国
大塚 和夫	助教授(第三研究部)	2. 10. 30	2. 11. 2	韓国
山本 紀夫	助教授(第四研究部)	2. 10. 30	2. 12. 10	アメリカ, ペルー, ボリビア
朝倉 敏夫	助手(第四研究部)	2. 10. 30	2. 12. 10	韓国
石毛 直道	教授(第一研究部)	2. 11. 18	2. 12. 2	イタリア
野村 雅一	助教授(第五研究部)	2. 11. 18	2. 12. 5	イタリア
田邊 繁治	助教授(第二研究部)	2. 12. 1	3. 1. 24	タイ, ラオス
林 行夫	助手(第四研究部)	2. 12. 9	3. 1. 22	タイ, ラオス
和田 正平	教授(第三研究部)	2. 12. 15	3. 1. 12	ケニア, タンザニア
福井 勝義	助教授(第三研究部)	2. 12. 10	3. 1. 31	ケニア, エチオピア
長野 泰彦	助教授(第一研究部)	2. 12. 16	3. 1. 9	インド
田村 克己	助教授(第二研究部)	2. 12. 18	3. 1. 22	タイ, ラオス
片倉 素子	教授(第二研究部)	2. 12. 24	3. 3. 4	サウジアラビア, エジプト
大塚 和義	助教授(第一研究部)	2. 12. 28	3. 1. 25	ソ連
大森 康宏	助教授(第三研究部)	2. 12. 28	3. 1. 28	フランス
周 達生	教授(第一研究部)	2. 12. 29	3. 1. 2	韓国

来館者抄

- 10月6日 何 秀 煌(香港, 中文大学文学部部長)
- 10月9日 Mohamed Aziz LAHBABI(モ

- ロッコ, モロッコ王立アカデミー会員) 夫妻
Walter Hugo KHOURI(ブラジル, 作家, 映画監督)

- 大韓民国済州道観光広報団一行
 団長 宋 奉 奎 (済州道観光協会会長)
 金 仁 圭 (済州道観光協会諮問委員長)
 柳 夏 永 (済州道観光協会前会長)
 康 完 柱 (済州道観光開発局長)
 金 正 銀 (済州グランドホテル代表理事)
 金 賛 翊 (ハイウェイ観光旅行社代表理事)
 金 得 鉉 (高麗旅行社理事)
 済州道立民俗芸術団31名
 記者団 8 名
- 10月11日 徐 光 翼 (中国, 中国社会科学院考古研究所副所長)
 朱 延 平 (中国, 同院助理研究員)
- 10月16日 K. V. チストフ (ソビエト連邦, ソ連科学アカデミー準会員, 『ソビエト民族学』編集長, ソ連科学アカデミー民族学研究所東スラブ部門主任)
 B. E. チストヴァ (ソビエト連邦, レニングラード教育大学教授)
 王 文 楚 (中国, 復旦大学歴史地理研究所教授)
 魏 嵩 山 (中国同大歴史系副教授)
- 10月18日 中谷佳男 (財団法人千葉県文化財センター司書)
- 10月19日 静岡市立登呂博物館協議会委員一行 総勢12名
- 10月25日 伊勢田進 (田辺市史編纂専門委員)
- 10月27日 Thomas J. KUNICKI (アメリカ合衆国, ウィスコンシン大学血液センター血小板研究室長)
- 10月30日 アンドレイ イバーノビチクル
 シャーノフ (ソビエト連邦, ソ連科学アカデミー正会員 ソ連科学アカデミー極東支部総裁代行 極東諸民族歴史考古学民族学研究所長)
 マルガリータ・アレクセーエブ
 ナバトルーシェバ (ソビエト連邦, ソ連科学アカデミー極東支部歴史考古学民族学研究所学術書記)
 Patya SAIHOO (タイ, チュラロンコーン大学政治学部教授)
 Savitri SUWANSATHII (タイ, 文部省国民文化委員会事務局次長)
 Anuary CHANNEPERNI (タイ, 同委員会部長)
 SAMIDI (インドネシア, 教育文化省ボロブドール保存プロジェクト研究部長)
 Maulana IBRAHIM (インドネシア, 教育文化省歴史考古保存発展研究部長)
 Dang Bai Van (ベトナム, 文化省遺跡保存修復局次長)
 M. H. SIRISOMA (スリランカ, 文化省考古局次長)
 Pich Keo (カンボジア, 情報文化省遺跡局研究部長)
 千原大五郎 (前ボロブドール技術諮問委員)
- 11月 8 日 谷 隆夫 (名古屋市美術館長)
- 11月15日 摂津市招聘中国蚌埠市経済友好代表団一行
 団長 胡 德 新 (蚌埠市委員会副書記)
 韓 元 祥 (蚌埠市人民代表大会副主任)
 張 玉 啓 (蚌埠市八一化工廠長)

- 徐大東（蚌埠市第二製菓廠長）
 劉開會（蚌埠市外事弁公室科長）
 11月22日 マレーシア国民大学学生一行
 総勢15名
 11月26日 Elda Matilde GARUZ（パナマ、
 パナマ芸術協会・現代美術館
 長）夫妻
 11月27日 孟憲勳（中国、上海大学校務
 委員会主任）
 廖炯模（中国、同大美術学院
 油絵系主任）
 周国斌（中国、同大美術学院
 中専部主任）
 戸潼年（中国、同大国際商業
 学院日語系講師）
 11月28日 Umesh Jaideo PAWANKAR
 （インド、ラジャ博物館学芸員）
 11月29日 植木浩（東京国立近代美術館
 長）
 KIM Kyung-woon（大韓民国、
 文化部国立国楽院事務官）
 YOON Yi-Kuen（大韓民国、
 同院事務官）
 糠谷隆（国立歴史民俗博物館
 展示課展示係長）
 佐藤安一郎（同館同課視聴覚係
 長）
 11月30日 黄達（中国、人民大学副学
 長）
 金同稷（中国、大連理工大学
 長）
 林理彬（中国、四川大学長）
 12月4日 デイル アイケルマン（アメリ
 カ合衆国、北米中東学会会長）
 小柳和宏（大分県立宇佐風土記
 の丘歴史民俗資料館調査研究
 員）
 12月6日 中島孝助（岩手県立博物館長）
 名久井文明（同館学芸第三課長）
 12月7日 一杉徹（千葉県立中央博物館
 庶務課長）
 渡辺正（同館普及課長）
 望月賢二（同館動物科長）
 12月13日 司馬義艾買堤（中国、国家民族
 事務委員会主任）
 水上忠（財団法人江戸東京歴
 史財団副理事長）
 森田直俊（同財団総務課長）
 12月17日 ミャンマー政府関係者一行
 団長 U Aye（外務省アメリ
 カ課長）
 Daw Ni Ni Myaning（第一
 工業省製紙化学公社技師助
 手）
 U Zaw Oo Kyaw（農林省ミ
 ャンマー農場公社ジュニアオ
 フィサー）
 Daw Khin Lay Myint（計画
 財務省財務局スタッフオフィ
 サー）
 U Myint Kyi（貿易省貿易局
 係長）
 Daw Khin Lay Yee（教育省
 第一医科大学化学部助手）
 U San Tun（中央公務員研修
 所政治学部助手）
 Daw Nant Rosetta（少数民
 族開発学院言語学部講師）
 12月18日 Said A.M. KHAMIS（大阪外
 国語大学アラビア・アフリカ語
 科客員教授）

国立民族学博物館研究報告 15巻 総目次

15巻1号

吉本 忍：インドネシアにおける手織機の類型論的研究——(1) 型式と分布——	1
小馬 徹：死と蘇生——ケニアのテリック人とティリキ人の死の文化の変遷——	115
八杉 佳穂：中米諸語の序数詞	205
西 義郎：ヒマラヤ諸語の分布と分類（上）	265

15巻2号

藤井 龍彦：ボリビアの農民——農民の「行動の記録」の分析（その1）——	349
田中 雅一：司祭と霊媒 ——スリランカ・タミル漁村における村落祭祀の分業関係をめぐって——	393
佐久間留理子：インド密教の図像学的資料（1） ——『サーダナ・マラー』における獅子吼親自在の成就法——	511

15巻3号

杉島 敬志：リオ族における農耕儀礼の記述と解釈	573
庄司 博史：サーミ民族運動における言語復権の試み	847

15巻4号

黒田 悦子：フェリアの変貌 ——スペイン、エストレマドゥーラの家畜・産業・祝祭市——	917
久保 正敏：歌謡曲の歌詞に見る旅——昭和の歌謡史・私論——	943
Toshifumi Gotō: Materialien zu einer Liste altindischer Verbalformen: 1. <i>ami</i> , 2. <i>ay/i</i> , 3. <i>as/s</i>	987
森 雅秀：インド密教儀礼における水	1013
Shunzo Onoda: Abbatial Successions of the Colleges of gSang phu sNe'u thog Monastery	1049
Musashi Tachikawa: A Study of the <i>Vajradhātu-maṇḍala</i> (1): Modern Line-drawings depicted according to the <i>Niṣpannayogāvalī</i>	1073

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認めたる者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 15卷4号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

石 森 秀 三

江 口 一 久

片 倉 素 子

崎 山 理

周 達 生

須 藤 健 一

垂 水 稔

長 野 泰 彦

林 行 夫

福 井 勝 義

松 原 正 毅

宮 本 勝

平成3年3月28日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 15卷4号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.15 no.4
1990

- KURODA, Etsuko The Transformation of the Ferias: Ferias of
Livestock, Agri-pastoral Industrial Products,
and Festive Events in a Town of Southern
Extremadura
- KUBO, Masatoshi Travels Sung in Japanese Popular Songs:
A Historical View of the Popular Songs of the
Showa Era
- GOTÔ, Toshifumi Materialien zu einer Liste altindischer Verbal-
formen: 1. *amⁱ*, 2. *ay/i*, 3. *as/s*
- MORI, Masahide Water in the Tantric Buddhist Rituals in India
- ONODA, Shunzo Abbatial Successions of the Colleges of gSang
phu sNe'u thog Monastery
- TACHIKAWA, Musashi A Study of the *Vajradhātu-maṇḍala* (1):
Modern Line-drawings depicted according to
the *Niṣpannayogāvalī*



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X